



公益財団法人 School Aid Japan
バングラデシュ通信
2014年3月号 No. 15



Narayankul BDP Primary School 運営スタート！

現在バングラデシュの農村では、やる気がある子どもたちにとっての教育環境は不足していると言えます。学校設備、教員の質、教員の労働環境、家庭の経済状況、国の教育体制、さまざまな要因がそこにはあります。しかし、それでも負けずに、夢を描き、夢を追う生徒達が大勢います。

「彼等のための学校があれば・・・。」

そこで、公益財団法人 School Aid Japan(SAJ)が現地 NGO 団体の Basic Development Partner(BDP)と協同で小学校の運営をはじめました。名前は Narayankul BDP Primary School です。現在 SAJ はこの小学校と、既に 2013 年から運営している中学校 Narayankul Dream Model High School(NDMHS)とで、小中一貫教育を展開しています。

「子どもたちの幸せのためだけに学校はある」の理念の下、「お金が無くても、勉強したい」生徒たちのために、小学校から中学校にかけて、系統的に成長できるモデルをつくり、バングラデシュに広める事で、教育水準の改善を図ります。



アセンブリ(朝礼)で7つの約束を復唱



授業中

Narayankul BDP Primary School で大切にしている事の一つに、NDMHS でもおなじみの「7つの約束」があります。

- 1、笑顔で元気よく挨拶せよ
- 2、約束を守れ 嘘をつくな
- 3、全てに感謝せよ
- 4、自らの夢のために限界を越えた努力を継続せよ
- 5、他人と喜び悲しみを共有せよ
- 6、損得ではなく善悪で判断せよ
- 7、正しいと信じ決めた事は諦めず最後までやり遂げよ

私たちは、学校教育で育むべき人格はこの7つに凝縮されていると考えます。生徒達は毎朝この7つをみんなで一緒に復唱し、学校生活の要所で意識することで、行動に落とし込みます。

2月21日 国際母語デー

2月21日というと、6000ある世界の言語の多様性を守ろうと、ユネスコが1999年に制定した「国際母語デー」ですが、実はその起源はバングラデシュにあることはあまり知られておりません。

1947年、バングラデシュは旧東パキスタンとして、旧西パキスタンと、距離以外にも多くの隔たりを抱えていました。

そのうちの一つが言語の問題でした。旧西パキスタンの主な言語はウルドゥ語であったのに対し、旧東パキスタンはベンガル語でした。パキスタン政府がウルドゥ語を公用語に制定しようとしたため、旧東パキスタンの市民は1952年、猛抗議を宣言しました。その際、ベンガル語を守るために、武力で鎮圧しようとした警察部隊に恐れず立ち向かい、銃弾に倒れた若い学生たちがいたのです。世界で初めて、命と引き換えに言語が守られた事件だと言われております。

以来毎年、バングラデシュでは2月21日に大規模な祭典が行われます。2014年も各地で、ベンガル語に対する誇りを確認する、重要な行事が行われました。



各地でさまざまなイベントが開催されました